

鹿児島県

薩摩川内市立川内南中学校 一年 北原 碧海

## いつか私も

三年前、私の父は消防団に入りました。しかし、今年の夏まで、私は消防団についてあまりよく分かっていませんでした。

消防団とは、いつもは普通に仕事をしているけれど、火事が起こると駆け付ける人たちです。また、火事だけでなく災害などの時も、地域をよく知っている消防団員が活躍してくださいます。東日本大震災。あの時、すぐそれぞれの地域で動き出したのも消防団だったそうです。

父が消防団に入って三年目。消防操法大会の選手になったと言いました。どんな大会なのだろうかと思ひ、応援に行くことにしました。「消防の大会とはどんなことをするんだろう。おもしろそう。」私のそんな軽い気持ちは、会場に入ったとたん消えました。会場にいる人全員が、真剣でほんの少しのミスも許されないという気迫が感じられました。父が出場している競技内容は、水槽から水をくみ出し火災を想定した的を倒すという内容でした。火事の現場では一分一秒でも速く行わなくてはならないことなんだと、改めて気づかされました。そして、いつもと違った真剣な父の姿を目にしました。父の姿からは、「市民の安全を自分たちで守る」という強い責任感があふれていて「父はすごい」と感じました。

大会の数日あと、父は「薩摩川内市消防局」のホームページを見せてくれました。ホームページの中には、先日行われた消防団の大会のコーナーがあり、写真がありました。どの写真を見ても真剣な

消防団員の方々。一枚一枚の写真を見ながら、この人たちが私が住んでいる薩摩川内市を守ってくださいているのだと思ひ、とても頼もしく見えました。次のページを見ると、私の中の消防団のイメージをさらに大きく変えた写真がありました。私の消防団のイメージは、火を消す、重い道具を持って走る、危険というものでした。そして、男の人の仕事というイメージしかありませんでした。ところが、私が目にした写真には女性の団員の方々が、同じように競技を行っていました。私とその写真を見ていることに気付いた父は、

「今は男の人だけでなく、女の人もたくさん頑張っているんだよ。」と教えてくれました。一生懸命な女性消防団員の写真を見て、純粹にかっこいいと思ひます。女性でも地域のために頑張れるのだと思ひ、私も将来役に立てるかもしれないと思ひ、うれしくなりました。

火事は一人一人の大切な財産や思い出を一口で飲み込みます。そんな恐ろしい火事から私たちを守ってくださいる頼もしい消防団員。いつか私も大人になったら、市民の安全を守る消防団員の一人になれるよう頑張りたいと思ひます。私の消防団のイメージを変えてくれた写真に感謝しています。

